

# 『一心千里』

永田 隆一

走って行けば、

見えてくる



第34回

昨今、太陽電池市場では供給が需要を60%程度上回り、製造販売企業の苦境が報道されています。

2011年における主要太陽電池メーカーの営業利益(単位=100万ドル)は、サンテック(▲633)、シャープ(▲217)、ファーストソーラー(▲68)、インリ(▲428)、サンパワー(▲520)、トリナ(31)、カナディアン(7)、JA(▲67)、Qセルズ(▲928)です。

生産能力は中国が42%でトップ、2位は17%で台湾。中国の6社は株场上場企業です。

昨年、米国のソリントラ社が経営破綻し、今年にはドイツのQセルズも

ライアントが事業所に太陽電池を設置しました。すべてが日本製単結晶

## スポイルされ続ければ弱くなる

## 誰かに守られ過ぎると、戦えなくなる

破綻しました。筆者は、太陽電池の市場機会と、中国企業のたくまじさを改めて考えてみました。

《太陽電池の成長機会》

石油市場は400兆円、埋蔵寿命は40~50年。石炭市場は200兆円、埋蔵寿命は100年といわれています。また、脱原発のモーメントと、メガソーラー建設ラッシュがあります。

《効率が最高ゆえ、設置面積が最小かつ曇りの日も発電可能》かつ、パワコンの効率と信頼性が決め手でありました。現在の交換効率(%)

薄膜系(10/2.0)、CdTe(11/0.8)、多結晶(20/1.1)、薄膜系(11/1.8)、CdTe(12/0.7)。

ここから四年後の市場モーメントを予想しました。一般家屋の70%は多結晶、30%は単結晶。集合住宅や小規模工場は、70%が単結晶で、30%が多結晶。大規模工場・メガソーラーは、70%がCdTe、30%が薄膜系。

効率がコストから予想できます。薄膜(アモルファス)系は、交換効率の低さと高コストがネック。CdTeの原料は、

日本の公害認定一号イタイタイ病のカドミウムです。良識人なら選ぶことをしないうでしょう。

日本公害認定一号イタイタイ病のカドミウムです。良識人なら選ぶことをしないうでしょう。

《中国の国力》 Edward Tse 著の「中国市場戦略」に、中国共産党は1990年代にリーダーシップを発揮して「唯一最大の創造的破壊」を主導したとあります。数万社に及ぶ国有企業を閉鎖し、その失

力の移動を市場経済に委ねて成し遂げたのです。筆者も、ここ数年の中国でのビジネスのスピード感には驚きを禁じえません。道路・鉄道といったインフラ整備しかり、自動車、家電製造しかりであります。

(毎月連載)